

# 荒廃森林の再生と未利用資源の活用で山村町村に新たな活力を

島根県奥出雲町長 岩田 一郎

## 1. 町村が抱える課題

- (1) 少子高齢化と人口減少に伴い、将来、山村に農林業の担い手が枯渇
- (2) 「所得のないところに定住はない」定住できる所得対策

## 2. 経済対策に関する意見

- (1) 過疎地域・中山間地域への継続的な支援の必要性

奥出雲町のような過疎地域・中山間地域においては、今後いかに町を維持していくかが大きな課題である。

すなわち、少子高齢化は、人口減少に拍車をかけ、さらに経済活動、また、基幹産業である農林業の担い手不足が深刻な課題となっている。

この機会に定住人口の増を図るべく経済対策への取り組みを行うが、単発的な補助事業では、定住促進につながらないため、継続した施策がなければ効果は上がらないと考える。

一方、景気が良くなればなつたで、都市への人口流出は増加することが予測されるため、中山間地域・過疎地域については、景気対策にとどまらず、情報通信技術の利活用による地域活力の強化や、定住対策と雇用の場の確保など多様な視点からの支援が必要である。

- (2) 地域政策の必要性

経済対策では、生活支援、中小企業支援、地方の活性化の3つの柱となっている。

地方の活性化については、雇用創出が大きな割合を占めているが、中山間地域における雇用にはおのずと限界があり、新たな雇用を創出するためには、新しい事業を起こす必要がある。

しかしながら、中山間地における新しい事業として取り組めるのは、基幹産業である農林業に頼らざるを得ない状況である。

そこで、林業での新しい事業創出や、遊休農地の活用などには、都市からのUIターン者の受け入れが必要不可欠である。しかし、農林業の仕事に慣れるまでの期間、さらには、その間の生活給が必要であり、定住までの期間はかなりの年月が必要で、今の一時的な経済対策では、将来の見込みが立たず、経済対策は長期雇用の場を担保しなければ対応できない。

## 3. この一策

まず最初に、昨年11月、全国森林環境税の創設について、全国森林環境税創設促進連盟会長として麻生総理大臣にお会いし、お願いをいたしましたところ、趣旨をご理解いただき、また、素早い対応により、森林・林業・木材産業づくり事業や路

網整備地域連携モデル事業などに 203 億円という大きな予算配分をいただき誠にありがとうございました。

これにより奥出雲町においても、路網整備に 7,100 万円の交付金をいただき、地元建設事業者と森林組合の間で路網整備と間伐事業等の連携を行う協定も結び、今後の森林整備を進めるための道筋ができたと感じているところでもあります。この場を借りてお礼申し上げます。

しかしながら、森林整備を担う森林作業員は、十分な人員が確保されておらず、高齢化や若者の都市部流出などにより不足しており、その林業作業員の養成には少なくとも 3 年は必要であり、雇用対策としては、この養成期間をどうするかという大きな課題があります。

そこで早急な経済対策として考えますのは、全国の山林は添付しております資料のとおり、竹が繁茂した山が多く見受けられ荒廃しており、これの対策は全く行われておりません。林業作業の研修期間にこの竹林を伐採することにより森林としての再生が可能となり、また、伐採した竹などは、その場所で粉碎、チップ化し、その材料で堆肥混入や、畑の土壌改良剤や肥料としての活用もでき、循環型農業が実践され、環境面や景観面から見ても経済対策により荒廃した森林は再生するものと考えます。この竹林の伐採期間に、間伐などできる林業従事者を養成することにより森林作業員は確保できます。

私は、以前から「所得のないところに定住はない」との理念で行政を進めており、都会からの農林業に従事する I ターン者は、住宅費、自家用車購入費など地元雇用者と比べると多くの費用が必要となりますので、年収 400 万円はないと定住できず、国の施策として助成制度が必要であります。これにより、中山間地域の労働人口及び、定住人口の増加が見込まれ、少子化の解消にもつながり、一方では廃材を新たな資源として活用することにより、循環型農業の促進に大きな役割を果たします。

このように、継続的な雇用と人材養成により、林業の再生と温暖化防止にもつながり、中山間地域は活性するものと考えます。

先日、「日本プロジェクト産業協議会」が、林業再生と 25 万人の雇用創出についての提言案の検討に入ったと報道されたところであり、継続した 10 年間で、林道など生産基盤の構築に国が 2.8 兆円、木材流通システムの効率化や森林バイオマスの研究利用に民間も含め 7 千億円の投資をするよう求めています。

私の町奥出雲町は、約 80% を森林が占めておりますが、全国の森林を多く抱える中山間地域においては、この提言が実現すれば、定住の促進や、少子高齢化、さらには過疎化への歯止めがかかるものとして期待をしているところでもありますので、課題を多く抱える山村町村の実情をよくご理解いただき、素早い対応をお願いするものであります。

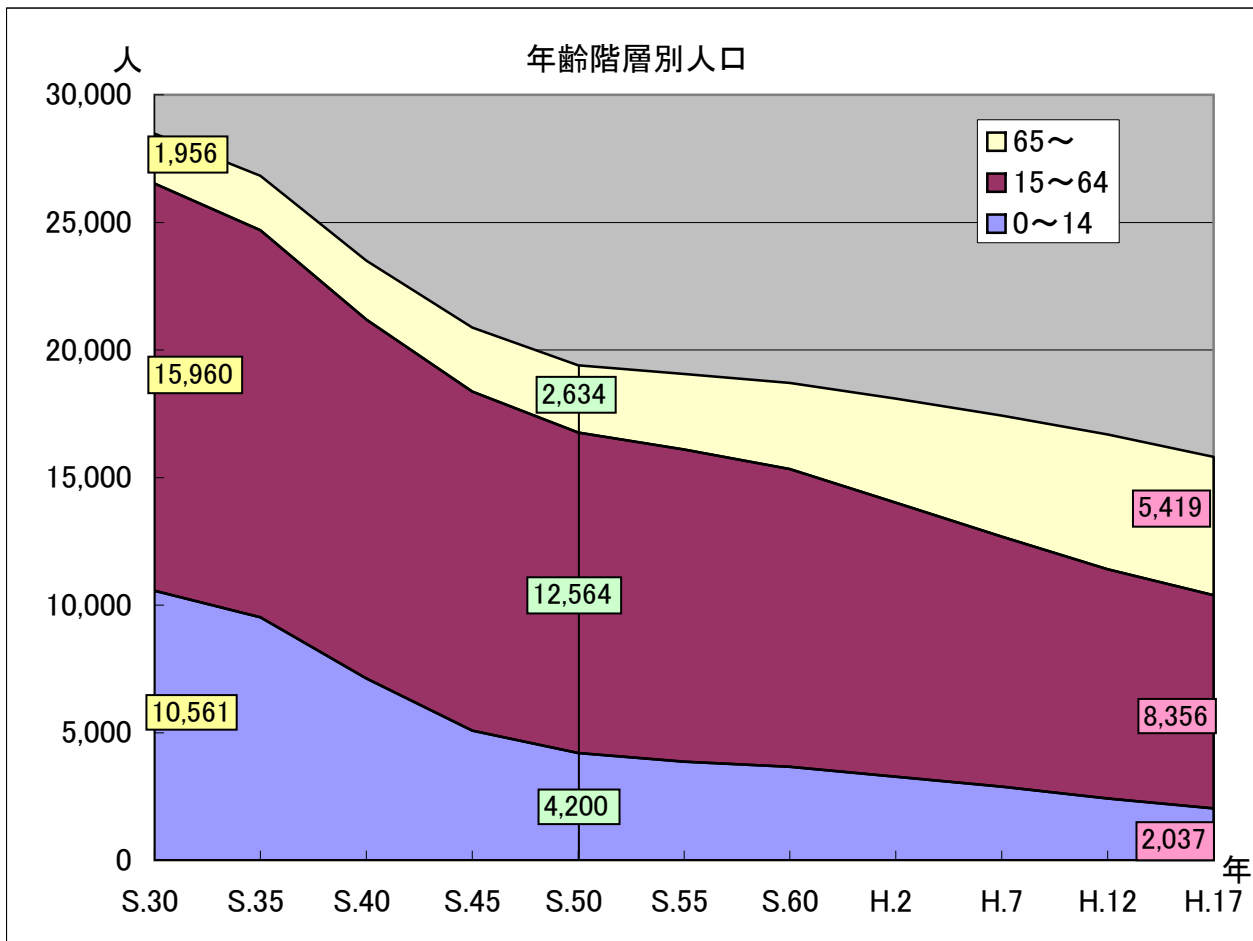




# 年齢階層別人口一覧表

国勢調査による

	0~14	15~64	65~	合計	高齢化率
S.30	10,561	15,960	1,956	28,477	6.87
S.35	9,523	15,171	2,126	26,820	7.93
S.40	7,129	14,062	2,310	23,501	9.83
S.45	5,084	13,283	2,511	20,878	12.03
S.50	4,200	12,562	2,634	19,396	13.58
S.55	3,864	12,231	2,962	19,057	15.54
S.60	3,669	11,664	3,373	18,706	18.03
H.2	3,271	10,740	4,085	18,096	22.57
H.7	2,889	9,794	4,743	17,426	27.22
H.12	2,420	8,987	5,282	16,689	31.65
H.17	2,037	8,356	5,419	15,812	34.27



町立小中学校児童生徒数推移

	小学校	中学校	合計
S.30	3,927	1,959	5,886
S.31	4,081	1,934	6,015
S.32	4,234	1,896	6,130
S.33	4,531	1,680	6,211
S.34	4,581	1,642	6,223
S.35	4,352	1,920	6,272
S.36	4,058	2,371	6,429
S.37	3,787	2,494	6,281
S.38	3,450	2,446	5,896
S.39	3,161	2,287	5,448
S.40	2,897	2,162	5,059
S.41	2,688	2,088	4,776
S.42	2,526	1,808	4,334
S.43	2,310	1,586	3,896
S.44	2,202	1,502	3,704
S.45	2,046	1,519	3,565
S.46	1,953	1,293	3,246
S.47	1,801	1,223	3,024
S.48	1,662	1,160	2,822
S.49	1,632	1,076	2,708
S.50	1,638	1,013	2,651
S.51	1,638	938	2,576
S.52	1,578	941	2,519
S.53	1,596	863	2,459
S.54	1,617	796	2,413
S.55	1,629	762	2,391
S.56	1,650	778	2,428
S.57	1,601	843	2,444
S.58	1,603	819	2,422
S.59	1,613	812	2,425
S.60	1,577	771	2,348
S.61	1,537	796	2,333
S.62	1,472	841	2,313
S.63	1,468	831	2,299
H.1	1,422	797	2,219
H.2	1,356	778	2,134
H.3	1,348	749	2,097
H.4	1,312	742	2,054
H.5	1,292	694	1,986
H.6	1,271	707	1,978
H.7	1,268	668	1,936
H.8	1,208	661	1,869
H.9	1,161	646	1,807
H.10	1,138	660	1,798
H.11	1,073	644	1,717
H.12	1,042	619	1,661
H.13	1,000	604	1,604
H.14	978	578	1,556
H.15	928	556	1,484
H.16	909	539	1,448
H.17	894	512	1,406
H.18	847	486	1,333
H.19	837	450	1,287
H.20	789	479	1,268

